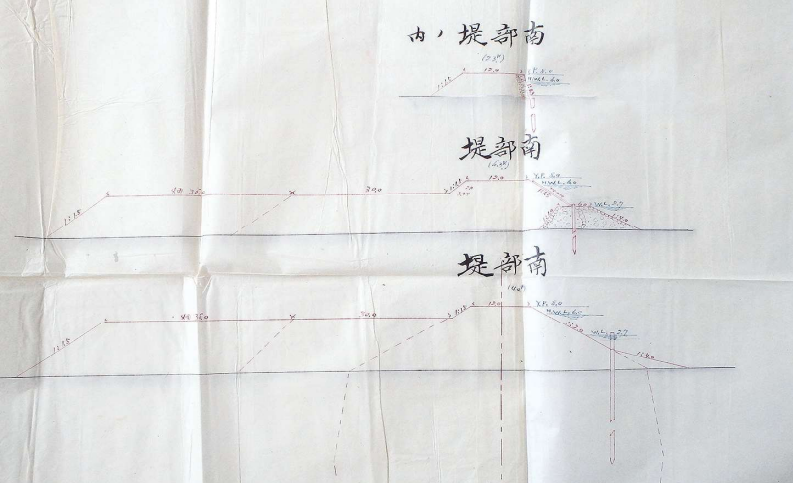
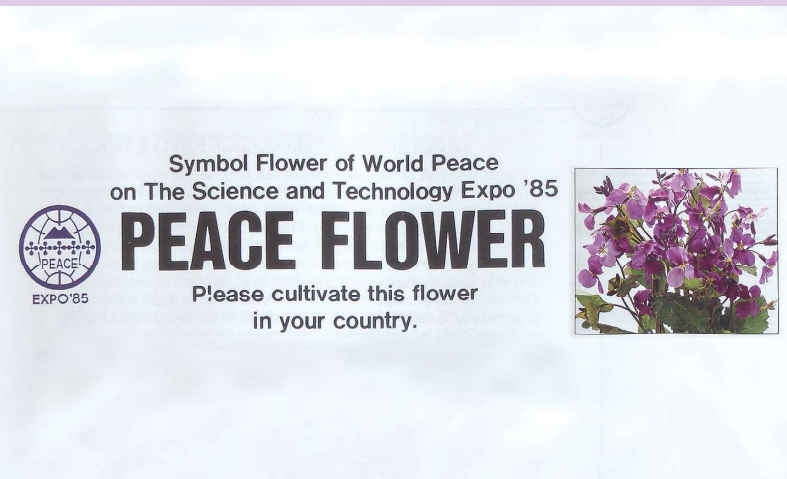




石岡市立ふるさと歴史館 第41回企画展

昭和



百年

展示解説

7月19日（土）

午前10時30分から

事前申し込み不要
直接ふるさと歴史館に
お集まりください



令和7年7月9日（水） ▶ 10月5日（日）

午前10時～午後4時30分 月曜休館（祝日の場合は翌日） 入館無料

石岡市総社1-2-10 石岡小学校敷地内 ☎0299-23-2398

昭和百年

目次

はじめに	1
八木の干拓事業	2
昭和初期の石岡町	8
山口誠太郎	12
急速に変わる石岡	18
おわりに	22

◆例言

本冊子は、令和7年(2025)7月9日～10月5日を会期として開催する石岡市立ふるさと歴史館第41回企画展に際して作成したものです。

展示及び本冊子の編集・執筆は、石岡市教育委員会 文化振興課（竹内智晴）が行いました。

展示にあたっては以下の文献をはじめ、多くの文献を参考といたしました。

石岡市『石岡市史 下巻』 1985年

写真にみる石岡の昭和史研究会『写真集 いしおか 昭和の肖像 増補改訂版』 2004年

石岡市『石岡の50年 ときの鼓動』2004年

◆謝辞

本展示では、以下の方々からご寄贈いただいた史資料を展示させていただきました。心より感謝申し上げます。(50音順、敬称略)

小野 富士子、松塚 勝重、渡辺 信行

はじめに

昭和
百年

今年 2025 年は昭和 100 年に当たります。1926 年末から 1989 年頭まで続いた昭和の間には、戦争があり、高度経済成長期がありと、目まぐるしく社会が動きました。石岡市内に目を向けても、大規模な農地開拓が行われ、大きな被害を出した火災は町の景色を変えるきっかけとなり、町村合併で石岡市と八郷町が誕生するなど、大きく変化しています。

近年石岡市に寄贈された史資料の中には、昭和を物語るものが多く含まれています。そこで今回の企画展は、それらの寄贈された史資料から、激動の昭和石岡史の一端をご紹介します。



昭和前期の中町通り

農地を拓く

昭和
百年

現在、米の高騰こうとうが問題となっていますが、昭和の始まりも米の高騰に悩まされていました。

米価高騰の理由として、明治期から大正期にかけての人口増加があります。また、工業化が進んだことで都市部への人の移動が増え、農業は停滞ていたいします。この状況は深刻な社会問題しんこくとなり、ついには大正7年に米騒動こめそうどうという形で噴出しました。

	合計		
	現住戸数	農家戸数	農家比率
大正2年	3816	2170	56.9%
大正4年	3906	2204	56.4%
大正6年	4015	2170	54.0%
大正8年	4037	2169	53.7%
大正10年	4436	2182	49.2%
大正12年	4459	2181	48.9%
大正14年	4674	2181	46.7%
昭和3年	4813	2212	46.0%
昭和5年	4881	2195	45.0%

大正期～昭和初期

旧石岡市域農家戸数推移
(石岡市史下巻より抜粋)

戸数に対する農家数の割合が低下していることがわかります。

米不足への対応として、大正8年に開墾助成法かいこんじょせいほうが制定され、農業生産の拡大が図られました。米不足対策の中で昭和が始まります。

石岡市域では、早い時期からこの食糧不足問題しょくりょうに向き合い、農地の拡大に挑んだ人々がいました。現在の石岡市域の南端、当時の関川村八木地区やぎで計画された霞ヶ浦最初の干拓事業「八木の干拓」です。昭和初期に完成した八木の干拓は、現在も広大な農地が広がっていますが、手探りで始まった工事には幾多いくたの困難こんなんが待ち構えていました。



浜卯干拓記念碑



新治郡関川村霞耕地整理地区想定図 大正後期

上の資料は八木の干拓の事業範囲の想定図です。関川地区八木～山崎の沖を干拓する計画が立てられ、ほぼ計画範囲の通りに農地が作り出されました。

なお、八木の干拓の正式な事業名は「新治郡関川村霞耕地整理地区」であり、羽成卯兵衛の屋号をとった「浜卯干拓」という通称も使われています。



八木の干拓

現在の八木の干拓 北西から撮影

霞ヶ浦干拓事業の先駆者

昭和
百年

八木の干拓に挑んだ主要人物に、「羽成卯兵衛」「猪瀬蔵太郎」「海東惣一郎」の3名がいます。

羽成卯兵衛は明治16年に生まれ、明治30年に高浜町の商家である羽成家の養子となりました。羽成家は醤油醸造業や米穀・肥料販売を営み、「開運」銘柄の醤油が知られています。羽成卯兵衛は家業の他に高浜町会議員や高浜農商銀行取締役、加波山鉄道監査役、五十銀行監査役なども務めました。

猪瀬蔵太郎は明治5年に生まれ、明治34年に真壁町会議員、明治40年から茨城県会議員、大正元年から真壁町長を務めた人物です。その他にも真壁銀行監査役、筑波鉄道取締役なども務めています。

海東惣一郎は工事が難航する中作業を請け負い、事業の完成に貢献しました。明治23年に生まれ、大正8年から湿深田の土地改良に取り組み、大正9年に山林の開墾と灌漑用の貯水池の造成を試みています。これらの経験を携え八木の干拓工事に参加しました。八木の干拓工事以降は、大正15年に涸沼干拓工事、昭和17年に本新島干拓工事など各地の干拓工事を手掛け、昭和22年には三村村長なども務めました。



羽成卯兵衛
石岡市史上巻より



猪瀬蔵太郎
茨城人名辞典より



海東惣一郎
石岡市史上巻より

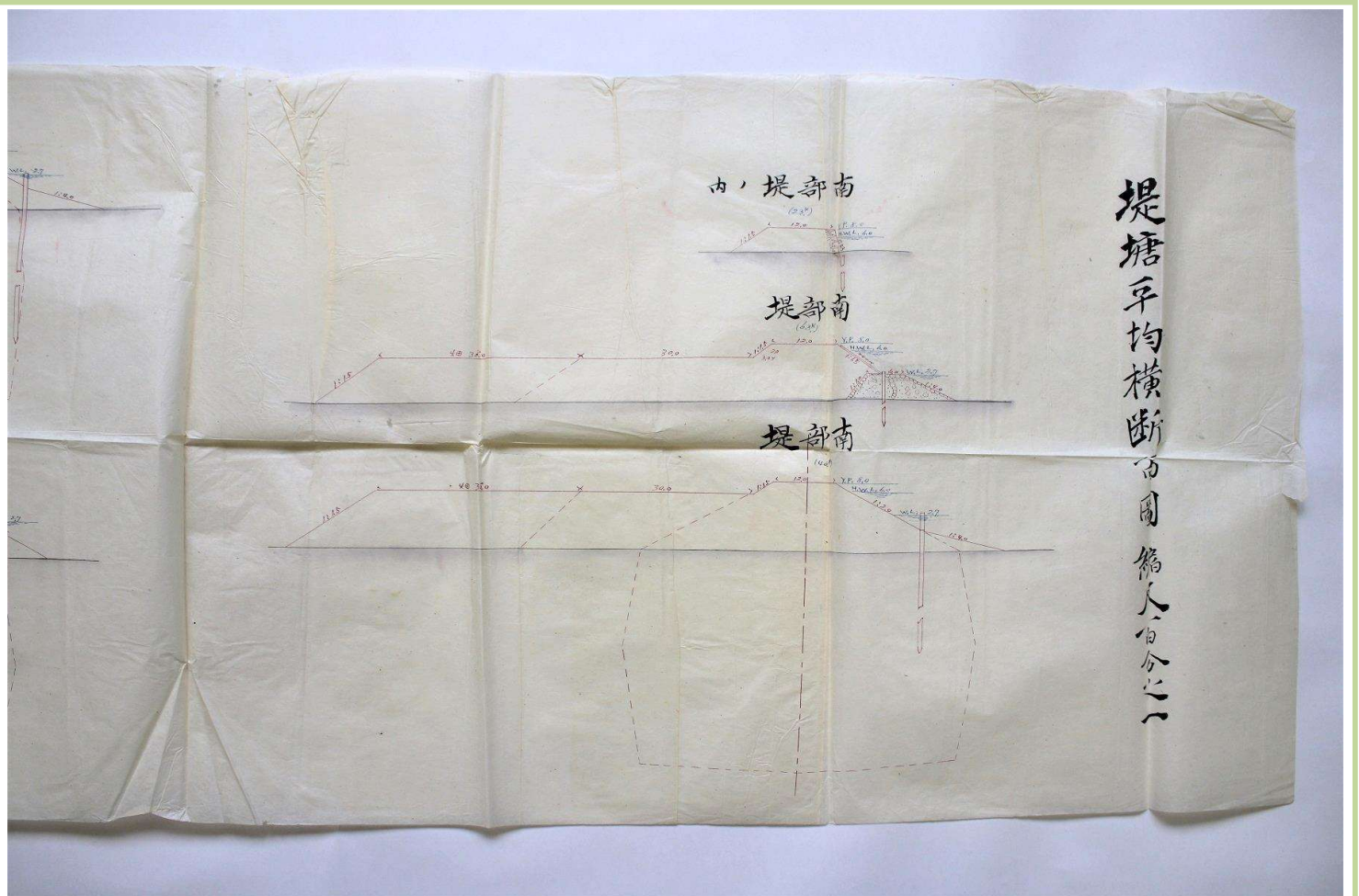
立ちふさがる壁

昭和
百年

大正8年10月29日、羽成卯兵衛と猪瀬蔵太郎の2名によって八木地区の埋立免許が申請されました。この申請は大正9年2月9日に許可されます。この2月9日以降の進捗^{しんちよく}を羽成卯兵衛は日誌に残しています。日誌によれば、埋立免許取得の一報は前日夜から降っていた雪で銀世界となった中で受け取られたようです。ここから霞ヶ浦の公有水面 63 町 9 反 9 畝＝約 635,000 m²の干拓が動き始めます。

免許を取得してから最初の壁は、関川村内の事業に対する賛否でした。八木の干拓とほぼ同時期に計画されたものに、高浜三村耕地整理事業があります。その当初計画範囲に八木地区が重複していたことなどで村内の意見が分かれたようです。日誌には「関川村民の輿論^{よろんふつとう}沸騰賛否容易に決せず」とあります。羽成卯兵衛たちは関川村の全戸にチラシを配り、大正9年7月21日に関川村民大会を開催しますがまとまりません。その後11月17日及び20日の関川村会の議論を経て、ようやく八木の干拓事業が認められました。この決定がよほどうれしかったのでしょうか、羽成卯兵衛たちは夜更けまで祝盃を上げています。

しかし、工事に入っても問題は続きます。難関となったのは堤防でした。堤防の構造は、木の杭を一定間隔で設置し、その周りに土を盛るという、言葉にすると非常にシンプルなものです。しかし、実際の工事にとりかかると、前例のない事業は予想外の難航をみせました。



八木の干拓堤防図面

堤防の断面図からシンプルな構造であったことがわかります。霞ヶ浦の奥部で波が穏やかなことから、石材などによる補強は一部に止まっています。

農地完成とともに迎える昭和

昭和
百年

堤防工事にあたり、羽成卯兵衛たちは茨城県などへ指導を仰ぎ設計を練りました。羽成卯兵衛が助言を求めた中には、鉄道工事で活躍していた東京の^{ありまぐみ}有馬組や、東京湾海堡建設で堤防建設を担当している^{おおくらどぼくぐみ}大倉土木組など、当時の日本の土木工事を第一線で支えた会社も確認できます。

様々な技術者の協力を得て、大正 10 年に堤防工事が始まりますが、想定を超える泥土の深さで難航します。例えば大正 11 年 3 月 20 日の日誌には打ち込んだ杭が抜け行方不明になったことが記録されています。設計変更を繰り返す中、大正 11 年 12 月 1 日に吉報が届きます。「海東惣一郎と工事請負大契約を為し^{ひとま}一先つ安心したり」と当時の羽成卯兵衛の心境がつづられており、地元で土木工事に明るい海東惣一郎を迎え入れたことは心強かったようです。海東惣一郎の参加後も、関東大震災など困難は続きましたが、ガソリン機関車の導入や長年の地盤改良の成果が表れたことで、大正 15 年、ついに堤防が完成します。そして同年 12 月 25 日、事業の完成が見え始めたころに昭和元年を迎えました。

ラストスパートに入る昭和 2 年 1 月 1 日の日誌には、「晴 寒^{ただよ}気ゆるみ春気漂ふ好日和なり」とあり、羽成卯兵衛の気分を表したように穏やかな元日だったようです。同年には堤防内の地区整理が進み、一部で耕作が始まります。10 月 1 日に堤防の一部が切れるアクシデントもありましたが、これも乗り越えて広大な農地が誕生しました。当初約 24 万円で計画された工事費は、終わってみれば約 44 万円まで膨らんでおり、予想を超える難事業であったことを示しています。石岡市域の昭和は、こうした社会問題に対する挑戦の中で幕を開いたのです。

生まれ変わる町並み

昭和
百年

霞ヶ浦沿岸部が干拓事業で大きく変わるころ、石岡駅周辺の市街地も変化を迎えていました。

町並みが変化した最初の要因は、交通の発展にあります。

日本鉄道の土浦－友部間が明治 28 年に開通し、石岡町の市街地には石岡駅が設置されました。これまでの交通手段に比べて格段に速く、また多くの人・物を運べる鉄道は、石岡の町に大きな影響を与えます。鉄道開通以前の市街地は水戸街道や柿岡街道、笠間道といった主要な街道沿いが中心でしたが、開通以後は大小路新道や金丸新道の設置など、石岡駅のある東側に拡張していきしました。

また、自動車の増加も影響します。徒歩が主な移動手段だったころの道路は幅の細い場所も多く、また細かな曲がり角も各地にありました。そういった道路では自動車を使うこともままなりません。そのため、自動車の交通量が増加すると、直線的な道路への改良や道路幅の拡幅といった工事が進められました。

さらに、大正 13 年には鹿島参宮鉄道の石岡－小川間が開通し、昭和 4 年にかけて鉾田まで延長していきます。また、加波山鉄道や水戸石岡電気鉄道が大正から昭和前期にかけて計画されたことも、町の変化を後押しします。昭和 2 年 12 月には農事試験場設置を求める陳情書ちんじょうしょや、県道石岡停車場線、いわゆる八間道路の新設などを求める上申書が石岡町から茨城県へ提出されています。いずれも鉄道を中心とした交通の発展を理由の一つに挙げており、町に与えた影響の大きさがわかります。



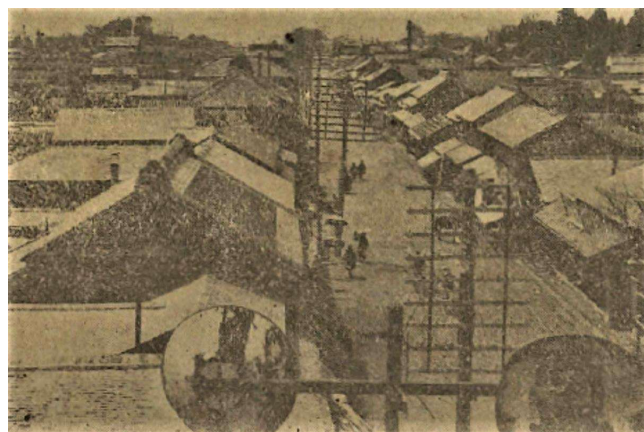
上. 石岡駅設置前（明治 17 年迅速測図）

下. 石岡駅設置後（明治 41 年陸地測量部地図）

石岡駅が設置されたことにより、市街地が東側に拡大していることがわかります。

また、市街地北方や中央部で道路の変化が読み取れます。

3月14日は朝から北西の風が吹いており、午後にかけて強まっていました。出火時刻は午後7時30分ごろで、中町の一角から火の手が上がりました。火事は強まっていた北西風の影響も受けて金丸町や守木町、富田町方面に瞬く間に燃え広がりました。火事は翌日午前2時ごろに鎮火しましたが、焼失戸数606戸、1,700棟以上、被害総額は当時の金額で300万円以上に上りました。当時の石岡町の総戸数は約3000戸なので被害は二割に及ぶ大災害でした。



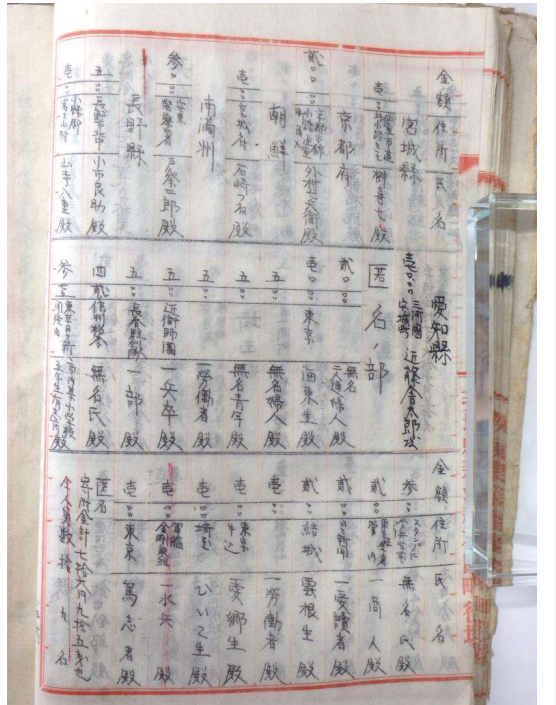
大火前の石岡の街並み 石岡しるべより

石岡の大火は市街地の南部を燃やし尽くしましたが、町民は復興に向けてすぐに立ちあがりました。復興の過程で、伝統的な商家建築が並ぶ街並みは、大きく姿を変えることになります。

大火からの復興

昭和
百年

大火によって大きな被害を受けた石岡町には、各方面から支援が寄せられました。支援金は石岡町の企業や有力者をはじめ、高浜町や関川村など新治郡域の各町村、さらに北は多賀郡や久慈郡から南は稲敷郡まで茨城県内全域、さらに県外では北海道や京都府、朝鮮や満州からも寄せられています。寄付者の中には日々新聞一愛読者などもあり、被害が報道された結果、広く支援が集まったのでしょう。支援金は合計で 59,703 円 8 銭に上り、その他食料品や衛生用品なども数多く届けられています。



大火災金品寄贈芳名録

こうした支援を受け、石岡町では街並みの再建が進められます。その際に、伝統的な意匠を維持する建物もあれば、看板建築などの洋風意匠を取り入れた建物も数多く作られます。大火後に完成した八間道路や、改修された旧水戸街道と相まって、新旧のデザインが混在する独特の景観が誕生しました。

大火から復興した石岡町の人々は、全国からの支援を忘れませんでした。県内では昭和 12 年の磯原町、昭和 18 年の大津町（いずれも現在の北茨城市）で発生した火災など、県外では昭和 18 年の鳥取地震に対して石岡町から支援金を送っています。被災の苦しみと支援のありがたさを知っているからこそ、石岡町の人々は積極的な支援を行ったのでしょう。

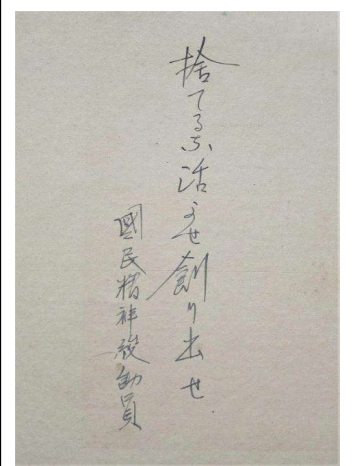
石岡の戦争

昭和
百年

昭和 6 年の柳条湖事件^{りゅうじょうこ}を発端とする満州事変、昭和 12 年の盧溝橋事件^{ろこうきょう}から始まる日中戦争、昭和 16 年の太平洋戦争開戦と、日本は戦争へ突き進んでいきました。石岡市域からも多数動員され、満州事変以降の戦没者・戦病死者数は 2000 名を超えています。

戦争を伝える遺構^{いこう}では、昭和 19 年から現在の石岡市役所本庁舎北方に急造された海軍航空基地があります。南北 1,200m、東西 300m の規模で、当時の航空写真では基地東側に飛行機を格納するための掩体壕^{えんたいごう}が分散している様子が確認できます。現在では宅地化が進み、掩体壕もその多くが姿を消していますが、地図をみると道路の形状などに面影が残っています。

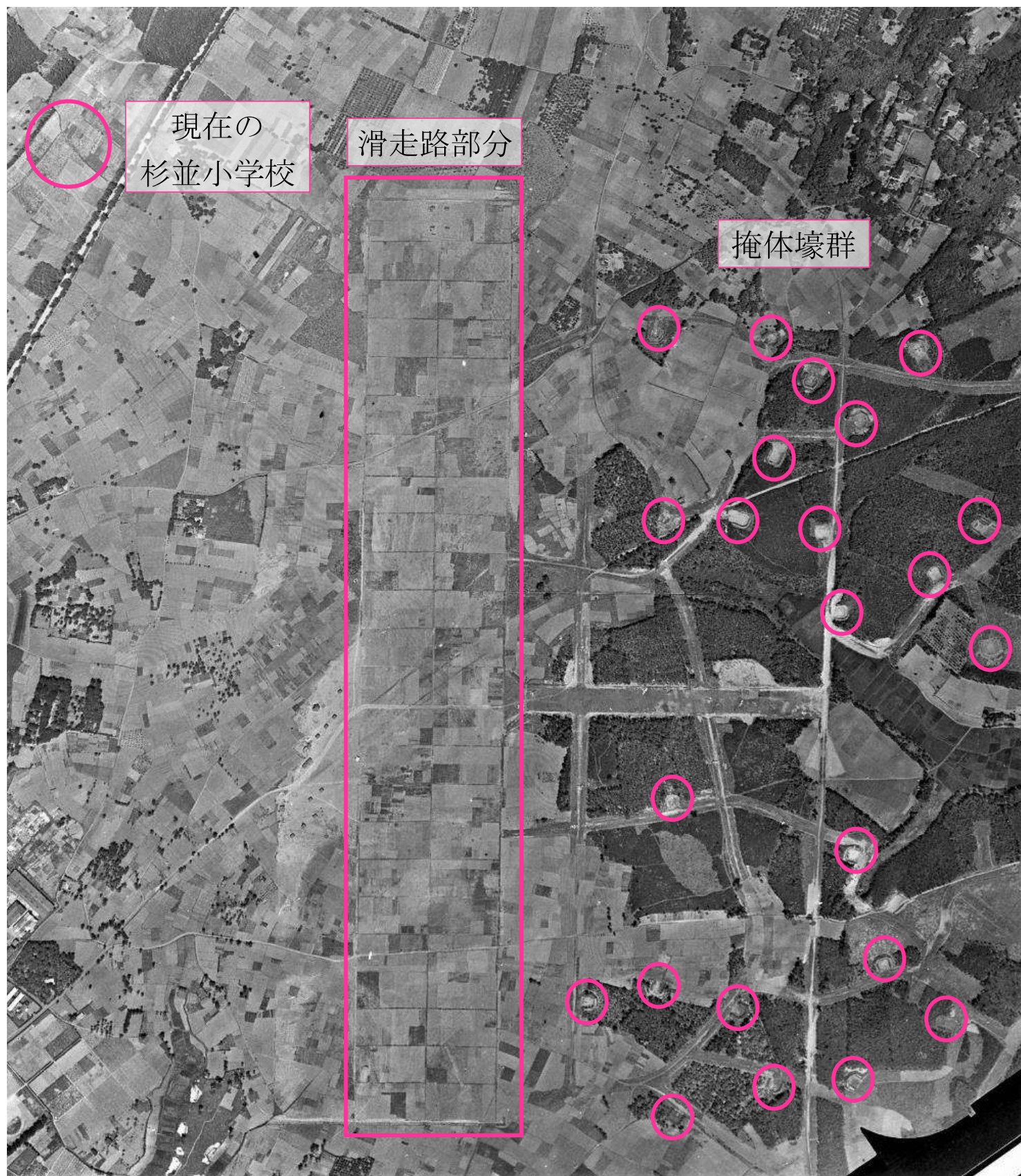
また、市域の戦争遺物として令和 5 年に石岡駅東地区で 16 丁の機銃が出土しました。石岡の航空基地には、終戦時に零式艦上戦闘機 11 機、九九式艦上爆撃機 2 機、練習機 1 基が所在していました。出土した機銃はこれらの飛行機に搭載されていた可能性があります。航空基地からやや離れていることから、終戦後に移動・廃棄されたのかもしれません。



昭和 13 年
石岡高等女学校
卒業アルバムに
書かれた文章



石岡駅東地区 機銃出土状況



昭和 21 年アメリカ軍撮影航空写真 (USA-M177-A-7-156)

国土地理院 地図・空中写真閲覧サービスより引用

紫部分は文化振興課で加筆

陸軍薬剤少将・山口誠太郎

昭和
百年

石岡の戦中から戦後期に活動した人物の 1 人に、山口誠太郎やまぐち せい たらうがいます。

山口誠太郎は明治 21 年に石岡町で薬種業を営む「灰吹屋」の長男として誕生しました。明治 40 年に土浦中学校（現在の土浦第一高等学校）を卒業後、鹿児島さう し かんの第七高等学校造士館、東京帝国大学医科大学薬学科（現在の東京大学薬学部）を経て、陸軍薬剤中尉に任官しました。

その後、大正 6 年に東京帝国大学大学院に入学、大正 14 年に当時アルベルト・アインシュタインが所長を務めていたドイツのカイザー・ヴィルヘルム物理化学研究所へ留学しています。ここではノーベル化学賞受賞者のフリッツ・ハーバーに指導を受けるなど、世界最高水準の研究環境に身を置きました。

帰国後は、陸軍科学研究所や陸軍衛生材料廠ぼう えきに勤務し、対化学兵器防護や野戦防疫給水法などの研究に従事しました。薬学大佐まで昇進していた山口誠太郎は、昭和 12 年に日中戦争が始まると薬学少将になり陸軍の衛生面を支えました。

昭和 15 年に陸軍の予備役になり、翌年から星薬学専門学校（現在の星薬科大学）の初代校長となります。しかし、太平洋戦争が開戦すると陸軍ぐん せい かん ぶに戻るしこととなります。太平洋戦争中はジャワ軍政監部付陸軍司政長官、陸軍キニーネ製造所長などインドネシア方面で勤務することとなり、同地で終戦を迎えました。

終戦後は昭和 21 年に帰還、以降は薬草栽培の普及に尽力し、茨城県薬草生産組合連合会長や茨城県立薬用植物研究所所長、茨城県薬草協会会長などを務めました。



イタリア ポンペイ遺跡 フランス ノートルダム大聖堂
いずれも山口誠太郎がドイツへ留学していた大正14年頃の撮影



富山薬学専門学校講義 星薬学専門学校実験室
昭和10年から15年頃の山口誠太郎の活動を伝える写真



山口式濾過機使用訓練の様子

石岡町史蹟保存会

昭和
百年

薬学分野で活躍した山口誠太郎ですが、郷土史家としての側面も持ち合わせています。

石岡の郷土史研究は、近世中期ごろに活発になり、享保 15 年(1730)の『常府要用録』を嚆矢に、天明 4 年(1784)『常府総覧記』、寛政年間(1789～1801)成立の『府中雑記』など、豊富な地誌類が編纂されました。

第二の隆盛は、明治 24 年から石岡尋常小学校長を務めた手塚正太郎とその門下生で作られました。手塚正太郎は明治 22 年に茨城県で最初の私立図書館「石岡書籍館」を設立し、史資料の収集や郷土史研究に尽力しました。山口誠太郎はその門下生の一人で、昭和 6 年に手塚正太郎を偲ぶ小冊子『手塚翁を憶ふ』に「先生と我が郷土史」という文を寄せています。また、昭和 8 年に手塚正太郎門下生を中心に石岡町史蹟保存会が作られると、山口誠太郎はその会長に就きます。会の活動期間は短く昭和 11 年に一時休止となりますが、その間に「常陸国分寺資料」など手塚正太郎の遺稿を発表し、史跡整備などの活動も行っています。山口誠太郎も「天狗騒動」「長法寺仇討史料」などを発表しています。

現在の石岡市総合計画では、政策目標 2 「悠久の歴史と優れた観光資源を活かすまち」が位置付けられています。山口誠太郎は昭和 9 年の石岡町を評して「国家的史跡の他に重視せらるるに反して、居民の之に対すること余りにも無関心」と述べていますが、短くも濃密な石岡町史蹟保存会の活動は住民の意識を変え豊かな歴史をアイデンティティとするその基礎になっており、現在の石岡の姿を作る上で欠かすことのできない業績です。

平和の花だいこん

昭和
百年

昭和 13 年、山口誠太郎は日中戦争の衛生材料補給状況視察のため中国を訪れました。その際、江蘇省の紫金山山麓にあった戦災廃墟で一輪の花に出会います。その花は「花だいこん」、正式名称は「オオアラセイトウ」という、紫色の小さな花を咲かせるアブラナ科の植物です。山口誠太郎はこの花の種子を入手し、陸軍衛生材料廠内の薬草圃場や石岡の自宅で栽培、周囲の知人に分け広げました。

戦後も継続していた花だいこんの栽培・普及が全国に広がるのは昭和 41 年のことでした。花だいこんの種子配布を伝える投書が朝日新聞の「声」欄に掲載されると、全国から 6,000 通もの反響の手紙が寄せられました。こうして全国へ広がった花だいこんの栽培は、山口誠太郎の没後も遺族の方々や協力者に受け継がれていき、昭和 57 年にさらなる飛躍をみせます。昭和 60 年の科学万博つくば'85 の会場で、平和の象徴として花だいこんの種子を配布する「花だいこんの地球花一杯運動」が計画され、「平和の花だいこんを広める会」が結成されました。万博会場で配布するには大量の種子が必要です。その栽培には市内外の協力者の他、旧石岡市域の小・中・高校生も参加し、目標とした種 2000 を大きく超える 5000 が集まりました。これらの種は万博会場を中心に 103 万部が配布され、平和の使者として世界へ広がりました。

山口誠太郎は戦争に当事者として参加しています。そうした人物が平和運動に深くかかわっているということは、戦争の悲惨さや平和の大切さを強く表現しています。戦後 80 年が経ち、戦争の記憶が遠くなりつつありますが、忘れてはいけない歴史です。

急速に変わる石岡

昭和
百年

昭和 20 年 8 月 14 日に日本はポツダム宣言を受諾し、太平洋戦争は終わりました。戦争の疲弊を乗り越えて日本社会が復興・発展へ進む中、石岡市域もまた急速に変わっていきます。

昭和 28 年 11 月 16 日に石岡町と高浜町が合併、翌年 2 月 11 日に茨城県下で 5 番目の市として石岡市が誕生しました。さらに田余村・玉川村・三村・関川村・竹原村と第二段の合併交渉が行われ、昭和 29 年 12 月 1 日に三村・関川村と合併し、八郷町と合併する以前の石岡市域となりました。昭和 30 年 1 月 1 日には柿岡町・園部村・葦穂村・林村・恋瀬村・瓦会村・小幡村・小桜村が合併し八郷町が誕生しました。そして平成 17 年、昭和が続いていれば 80 年 10 月 1 日に石岡市と八郷町が合併し、新・石岡市となりました。令和 7 年 10 月 1 日には合併 20 年の節目を迎えます。

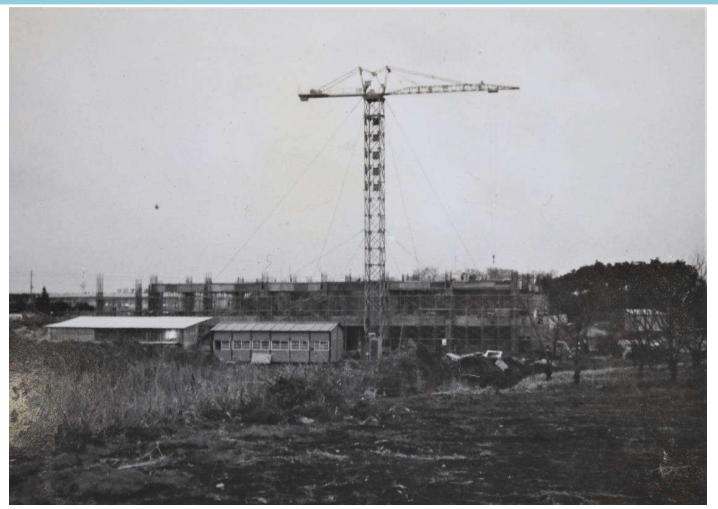
人々の暮らしも急速に変わりました。石岡市で有線電話が開通したのが昭和 39 年、昭和 40 年には交通事故の増加に対応するために救急車が配置されました。昭和 43 年の市報では歩行者専用信号機の設置が報じられています。今では当たり前にあるものの多くが、戦後急速に整備されていたのです。

生活が豊かになるにつれ、市域の開発も活発になります。昭和 47 年に完成した柏原工業団地、昭和 59 年に開通した常磐自動車道、昭和 62 年に分譲が始まったフローラルシティ南台など、大規模開発により景観ががらりと変わりました。

近年、昭和後期から平成前期にかけて石岡の風景を撮影した写真が石岡市に寄贈されました。それらの写真から、石岡の変化を振り返ってみましょう。



旧石岡市役所



石岡市役所建設の様子
昭和 40 年代



石岡駅旧駅舎



石岡駅旧構内



石岡停車場線 (八間道路)
左. 石岡駅方向



右. 街角情報センター方向



石岡アルコール工場
昭和 13 年、石岡市石岡に設立



石岡市民会館
昭和 43 年開館、令和 2 年閉館



石岡市立東小学校付近
石岡市で最初の組合施行による土地区画整理事業でした。
昭和 48 年着手、昭和 50 年完成



旭台二丁目付近



南台三丁目～東石岡三丁目付近

昭和 40～60 年代は人口増加を受け次々と開発が行われ、大規模な住宅街の出現など景観ががらりと変わりました。



開発中の石岡駅東地区



石岡市立南小学校
昭和 51 年開校



石岡市立杉並小学校
昭和 53 年開校

児童の増加に伴い、昭和 50 年前後は小学校の設置が相次ぎました。



石岡市立高浜小学校旧校舎
昭和 54 年にいずれも新校舎に変わっています。



石岡市立石岡中学校旧校舎



都市計画道路村上六軒線工事

おわりに

昭和
百年

今回の展示では、昭和 100 年の節目を迎えることから、昭和期の石岡を振り返りました。中にはご見学いただいた方々が当事者として体験された事柄も含まれていたかと思います。懐かしさを感じていただければ幸いです。また、「ほかにもこんな事あった」「この内容なら私はもっと詳しくわかる」「うちにはこんな関係するものがある」などの感想を持たれた方もいらっしゃるかもしれません。そのような場合は、ぜひ石岡市教育委員会文化振興課まで情報提供をお願いいたします。今後の石岡近現代史研究に活用させていただきます。

最後に、今回展示した史資料、写真などは、主に市民の方々からご寄贈いただいた資料になります。ご寄贈いただきました皆様に、この場を借りて感謝を申し上げます。ご協力いただき誠にありがとうございました。



現在の中町通り

Memo

This image shows a single page of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dashed lines.

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dashed lines.

石岡市立ふるさと歴史館 第41回企画展

昭和百年

令和7年（2025）7月9日発行

編集・発行

石岡市教育委員会 文化振興課

〒315-0195

茨城県石岡市柿岡 5680-1

TEL 0299-43-1111

石岡市立ふるさと歴史館

〒315-0016

茨城県石岡市総社 1-2-10

TEL 0299-23-2398